

環境影響評価審査書に対する事業者の主な対応

067	さがみ縦貫道路事業（愛川町中津～城山町川尻）	
項目	審査書の指摘事項	事業者の対応
総括事項（路線及び構造の選定理由について）	<p>予測評価書案によれば、計画路線のルート及び構造は、総合的な整備の考え方、土地利用の状況、地形等自然の状況等を考慮し、選定したとしているが、住居等の比較的多い城山町城山一丁目から中沢地区を通過し、また豊かな自然が残されている中沢川及びその周辺地区を橋梁構造で通過するに至った理由を平面計画、縦断計画等の観点から具体的に明らかにする。</p>	<p>計画路線は、相模原インターチェンジから八王子インターチェンジまでをほぼ直線で結ぶルートを基本とし、関連する道路網や土地利用及び地形状況などを考慮して城山インターチェンジを設定した。</p> <p>平面計画の観点からは、津久井湖、城山湖、津久井発電所、谷ヶ原浄水場、城山高校、中沢中学校を避けるため、城山町城山一丁目から中沢地区を通過することになるが、その中でも家屋の立地状況などを考慮し、周辺に与える影響を極力少なくするよう路線を選定した。</p> <p>また、縦断計画の観点からは、中沢との交差では、中沢川及びその周辺の改変を極力小さくするため橋梁構造で交差するよう選定した。</p>
大気汚染	<p>(1)県内の浮遊粒子状物質の濃度は経年的に高い水準で推移しており、また大きな社会的関心が寄せられていることから、浮遊粒子状物質の発生量の軽減に努めること。</p> <p>(2)都県境に計画されている城山八王子トンネルの下り線（八王子方面行き）では換気塔が計画されているが、上り線（厚木方面行き）に換気塔が計画されていない理由について明らかにすること。また、計画路線は大小5か所のトンネル部分をもつ計画となっており、トンネル坑口から排出される浮遊粒子状物質による周辺環境への影響を極力低減するための対策を検討すること。特に城山八王子トンネルについては、坑口からの排出量を低減するために、集じん装置の設置などの対策も含めて検討すること。</p> <p>(3)予測評価の対象を平成22年としており、供用時までには社会状況、周辺環境等の変化が想定されるため、将来交通量、排出係数など自動車の走行に係る汚染物質の排出諸元、気象観測値、バックグラウンド濃度等の予測条件について、今後さらに調査及び監視を続け、予測評価の信頼性を確保し、調査・監視やモニタリングの結果によっては、適切な対策を実施すること。</p>	<p>(1)浮遊粒子状物質の低減に向けては、自動車からの排出ガス対策が行われており、道路管理者においても定期的な路面清掃を行っていくほか、自動車からの浮遊粒子状物質の対策の実施に向けて調査研究を行っていく。</p> <p>(2)トンネルの換気方法については、トンネル内と坑口部周辺の環境を考慮して決定している。城山八王子トンネルの上り線(厚木方面行き)は、下り勾配であることから所要換気量は小さいためジェットファンによる縦流換気方式としているが、その場合トンネル出口付近の二酸化窒素濃度は環境基準を満足する。一方、下り線（八王子方面行き）は、上り勾配となることから所要換気量が大きくなり、ジェットファンだけでは対応できないことから、立坑送排気方式の換気塔を設置する。なお、換気方法は、事業実施段階において、浮遊粒子状物質の対策の実現に向けて行う調査研究及び計画路線周辺の環境状況等を踏まえ、集じん機の設置等を検討する。</p> <p>(3)予測に用いた気象観測データ、排出係数等については、供用開始前までの適切な時期に、自動車排出ガス規制の動向等を踏まえ検証する。また、大気汚染の状況については、事業実施段階で、具体的な測定場所、測定期間、測定項目等を含めて、関係機関と協議のうえ、必要に応じて継続調査し、沿道の大気汚染の状況を把握する。なお、これらの状況によっては、関係機関の協力を得て、環境保全のための適切な措置を講じていく。</p>
騒音・振動	<p>(1)城山町城山から中沢にかけては、計画路線の中で比較的住居の多い地区であることから、騒音対策の検討にあたっては、地形等の状況を勘案した高さ方向の影響も十分留意すること。また、トンネル坑口部、インターチェンジ部においては、その壁面やランプ下面からの反射音の影響が懸念されるため、必要に応じて吸音処理を行うなど適切な対策を実施し、周辺への影響をさらに低減すること。</p> <p>(2)供用後の道路交通騒音等の状況についてモニタリングを行い、結果によっては適切</p>	<p>(1)城山町城山から中沢にかけての地区においては道路面と遮音壁上端を結ぶ直線より高い位置に住居はないため、遮音壁の効果は十分にあると思われる。また、トンネル坑口部、インターチェンジ部等においては、コンクリート壁面やランプ下面等からの反射音の影響を低減させるため、周辺の土地利用状況等を考慮して必要に応じて吸音板の設置等の対策を講じていく。</p> <p>(2)供用後の道路交通騒音の状況については、事業実施段階で、具体的な測定場所、測定期間等を含めて関係機関と協議のうえ、必要に応じて継続調査し、供用後の道路交通騒音の状況について把握していく。なお、これらの状況によっては、関係機関の協力を得て、環境保全のた</p>

	<p>な対策を講じること。</p> <p>(3)計画路線周辺には学校が立地している箇所もあることから、学校に対する工事中の騒音の影響については、特定建設作業に係る騒音の規制基準よりも軽減させる対策について検討すること。</p>	<p>めの適切な対策を講じていく。</p> <p>(3)学校の近傍での工事に際しては、低騒音型建設機械の使用により、積極的に騒音の低減に努めるとともに、工事用目隠板の高さ等に配慮する。</p>
動物・植物・生態系	<p>(1)計画路線は自然環境保全地域や貴重な景観資源である相模川沿いの斜面緑地を通過し、その一部を改変することから、これらの改変箇所においては、植栽の方法や樹種などに十分留意し、積極的に緑の復元を図ること。</p> <p>(2)中沢川周辺など自然豊かな地域では多種多様な動植物の生息生育が確認、推測されている。このため、動植物によっては、工事による樹林や水辺の改変、供用後の緑地の分断などによる生息生育環境への影響が懸念されるので、これらの動植物に対する配慮として、計画路線周辺の動植物の生息生育状況等を把握の上、適切な保全対策を講じること。</p>	<p>(1)計画路線は、トンネル構造や橋梁構造が多く、改変面積は少ないが、やむなく、改変する部分については、必要に応じて専門家の意見を聞き、地域の植生状況を考慮した植栽を行うとともに、貴重な植物種を可能な限り移植する。なお、事業実施段階において、必要に応じて土壌の調査を行い、地域特有の生育環境を保全するため、表土の有効利用を図る。</p> <p>(2)計画路線周辺の動物の生息状況等を把握したうえで、けもの道の確保、動物に配慮した側溝、立入防止柵の設置などに配慮する。また、構造物及び工事用進入路等の施工にあたり、極力改変を少なくすることにより、動植物に与える影響を小さくするよう配慮する。さらに中沢川などの河川の横断箇所において、仮締め切り、沈砂池の設置により濁水の影響を小さくするよう配慮する。</p>
景観	<p>新たに出現する人工構造物を周辺景観と調和させるための色彩やデザインの考え方、調和させるために配慮する内容を示すこと。</p>	<p>構造物は計画路線通過地周辺の水辺景観、田園風景、山地・渓谷景観等の景観との調和を図る。橋梁は、全体の色彩、デザインを考慮するとともに、桁裏や排水管の処理、付属物の取り付けにも配慮する。また、環境施設帯、のり面及び路肩等には、周辺地域に配慮した植栽を施すことにより可能な限り景観に対しての影響を小さくするよう努めていく。なお、事業実施段階において、より周辺環境との調和を図るため、専門家等の意見を取り入れながら、総合的に検討を行う。</p>
その他（地震対策について）	<p>道路構造物の安全性については、近年、兵庫県南部地震等の自然災害による予想外の被害が生じたことから、社会的関心が寄せられており、計画路線は橋梁・高架構造の箇所の計画もあることから、道路橋の耐震設計基準の改訂を踏まえた対策について検討すること。</p>	<p>道路構造物の安全性については、事業実施段階で詳細な調査を実施し、改訂された設計基準に基づき適正な設計を行うことにより確保する。</p>
その他（危険物等積載車両の事故対策について）	<p>計画路線は、県民の貴重な水源となっている相模川を横断することから、危険物等積載車両の事故が発生した場合には流出物質による河川等の汚染が懸念されるため、事故発生時における対応策、関係機関との連絡体制について十分に検討すること。</p>	<p>危険物等積載車両の事故への対応策として、処理方法のマニュアル等を記したデータシート、砂、石灰、油吸着剤等を道路管理パトロールカー等に配備し、的確かつ迅速な対応に努めていくとともに、道路の供用に当たっては、事故発生時における業務分担、情報交換、その他必要事項について警察、消防などの関係機関と十分な協議を行っていく。</p>
その他（地下水への影響について）	<p>計画路線の周辺には地下水や湧水を利用している地区もあるため、本件事業の実施に当たっては地質調査等を十分に行い、トンネル工事等が地下水の減少や枯渇などの影響を引き起こすことのないよう配慮すること。</p>	<p>地下水や湧水に対する影響を軽減するため、事業実施段階において十分な地質調査や地下水調査を実施し、極力周辺に影響を与えない工法の採用を検討する。</p>